

# イノベーションを支える「知識インフラ」 の深化のための提言～第四期科学技 術情報整備基本計画策定に向けて～ (素案)の概要

# 全体構成

---

## 1 はじめに

本提言の位置付け＝前提言の考え方を継承。国の計画との連携

## 2 国立国会図書館の第三期科学技術情報整備基本計画の評価

今期における主要な達成状況と残課題の提示

## 3 「知識インフラ」の整備を巡る国内外の現状と課題

冒頭で「知識インフラ」の重要性について再確認

諸外国の先進的な取組を紹介しつつ、我が国における現状を踏まえたうえで、国全体としての主要課題を提示

## 4 国立国会図書館が果たすべき役割

3での主要課題を受けて、次期計画期間中に、関係諸機関と連携・協力し、国立国会図書館(NDL)が実施すべき事項を提示

# NDL第三期科学技術情報整備基本計画の評価

## 主要な成果

### ① 「知識インフラ」の構築に向けた取組

- NDL東日本大震災アーカイブを構築し、文献以外の情報も収集
- 国立国会図書館サーチを国全体の統合ポータルへ
- 日中韓電子図書館イニシアチブ(CJKDLI)等による国際的連携の推進
- 「NDLラボ」事業による次世代システムの開発

### ② デジタル化資料の大幅増と利用機会の拡大

- 約200万点以上の資料デジタル化を実施
- デジタル化資料の図書館等への送信

### ③ 電子情報資源収集範囲の拡大

- オンライン資料収集制度の開始
- NIIと連携した電子的博士論文の収集・保存 など

## 残課題

- 電子情報資源の利活用において、著作権・肖像権等の権利処理やプライバシー・個人情報保護の問題のため、提供が進んでいない
- 出版状況の急速な変化や技術的な進展に対応できておらず、網羅的な学術情報の収集が実現できていない
- 研究データの長期アクセス保証への取組ができていない。引き続き、図書館における研究データへの関与の在り方を検討する必要がある

# 我が国における現状・課題

## (1) 国としてのメタデータ集約とコンテンツを一元的に提供できる窓口の構築

### 現状

- 諸外国ではEuropeana等の文化情報資源を統合的に検索できる連携プロジェクトが推進

### 課題

- 国全体をカバーするデジタルアーカイブ連携が不在
- コンテンツ及び集約したメタデータの利活用の促進

## (2) 電子情報資源への永続的アクセスの保証

### 現状

- コンテンツと個人・団体(著者)名の国際的な永続的識別子が多数存在
- 英・独・オランダ等の国立図書館で電子書籍・電子ジャーナルの収集を開始
- 諸外国の方が資料デジタル化と利活用のための取組の進展が著しい

### 課題

- 永続的識別子の継続的な調査・普及が必要
- オープンアクセスを含む国内刊行電子書籍・電子ジャーナルの長期利用保証が不整備
- 国全体での資料デジタル化の取組が不十分

## (3) 文献に相当する電子情報資源等の提供・利活用・オープン化

### 現状

- 諸外国では学術論文等の成果物のオープン化が推進
- 外国刊行文献の入手手段が多様化
- コンテンツの利活用促進のために、EU各国では孤児著作物の制度整備が進展

### 課題

- 研究成果物のデジタル化・オープン化が不十分
- デジタル化資料の利活用の促進に向けた制度等が未整備

# 我が国における現状・課題

## (4) オープンガバメントによる公共データの提供と保存

### 現状

- 「オープンデータ憲章」(G8サミット)に基づく政府のオープンデータに向けた取組が進捗
- 各国国立図書館で書誌データのオープンライセンス化が推進

### 課題

- 公開された公共データの長期的保存への対策が不在
- 図書館の目録データ等の扱いが不明確

## (5) 研究データの共有・保存・オープン化

### 現状

- 分野によって、研究データの共有・保存の取組状況はさまざま
- 諸外国では論文に加え、公的研究資金が投入された研究成果物である研究データもオープン化が義務付けられつつある
- 大手海外出版社がデータジャーナルを刊行
- JaLCで研究データにDOIを付与する実験プロジェクトを開始

### 課題

- 研究データの共有・保存・オープン化に関する国全体の方向性の合意形成が未だ
- 研究データの共有・再利用のためのデータ整理を行う専門家が不在
- 研究データの参照・利用保証のために識別子の普及・推進が必要

# 「深化型知識インフラ」の枠組

イノベーションの創出

・経済・社会的な課題解決  
・研究開発の強力な推進へ

一般市民、企業等の利用、大学・研究機関等におけるコンテンツの再生産

## 利活用促進のための領域

=コンテンツの利活用促進のための枠組を整備する

### 制度整備・人材育成等

- ・利活用促進のための各種施策（孤児著作物の制度整備を含む。）
- ・人材育成のための施策

関係府省等との連携

### 国立国会図書館の役割

- ・国全体のメタデータの集約・提供、目的別・分野別ポータル支援
- ・メタデータのオープン化・標準化の推進
- ・コンテンツのライセンス表示の推進
- ・デジタル化資料の利活用に向けた取組
- ・当館作成データのオープン化

### 目的別・分野別ポータル

- ・地方発信、海外発信向けの入口の提供
- ・教育利用、防災利用、商業利用等の入口の提供

関係機関への支援・協力

## 2つの領域を繋げる

### 学術情報の集約=NII・JST等

- ・研究成果物、教育コンテンツ等の収集・保存
- ・オープンアクセスの推進
- ・デジタル化の推進

- ・MALUI連携推進、アグリゲータ支援
- ・電子情報資源の長期アクセス保証
- ・研究データ共有・保存の検討・啓発等
- ・図書館界のアグリゲータ
- ・国内情報資源の集約・収集・デジタル化

### 他分野の情報資源の充実 = 他機関アグリゲータ

- ・MLAコンテンツの拡充、保存の支援
- ・分野ごとにメタデータの集約/整備の支援

官公庁、出版社、図書館、大学・研究機関・学協会、文書館・博物館・美術館 ほか

文献

公共データ

研究データ

画像データ

音声データ

## 恒久的保存のための領域

=コンテンツの拡充を図り、メタデータ/コンテンツの長期利用アクセスを保証する